

第10期 第5回小平市農のあるまちづくり推進会議議事録

1. 開催日時 令和7年4月14日（月） 午後3時00分～午後5時00分
2. 場 所 小平市役所 3階 庁議室
3. 出席者 委 員：出席10名、欠席2名
事務局：出席4名
4. 内 容
 - (1) 開会挨拶
相原会長による挨拶
 - (2) 令和6年度第4回会議の検討内容について
令和6年度第4回の協議内容について事務局から報告
 - (3) 今後の活動の方向性の決定と課題整理について
→協議内容については下記に記載する
 - (4) その他

以下、協議内容

【今後の活動の方向性の決定と課題整理について】

事務局より、前回の会議内容について報告をした。このことを踏まえて、小平市の農業の特徴と、これまで議論された農家の方々の苦労を、一般消費者の方々に伝える方法について協議し、意見のほか、新しい提案を募った。また、協議を進めるにあたり、事務局より本日の会議の検討内容と、今後の方向性について整理した資料を用意し、各委員へ配付した。

【小平市の農業の特徴と、農家の方々の苦労を、一般消費者の方々に伝える方法について】

- ・ 市内小学生は約1万人いて、中学生は5千人、高校生も5千人に上る。この2万人の子ども達に広報をすると、両親がいるので、2万人が4万人に、さらに祖父母もいるとなると、子ども達に情報発信をすると、何倍もの人達に広報ができる可能性がある。そこで、小中高生をターゲットにした農業に関する情報発信を考えていくのも1つであると思う。
- ・ 学童農園事業に従事して20年程が経つが、学童農園事業をとおして農薬についての近隣住民からの理解が図れている部分もあると感じる。例えば、学童農園事業で子ども達に農薬を撒くことを説明ができる上、保護者も自由参加でその説明に参加してもらうことで、農薬への理解が図れている。
- ・ 農家としては、消費者の方々に農産物を買って食べてもらうことを一番望んでいる。現状、学童農園事業などをとおして、農業に関する理解を図ることができている一方で、消費者の方々の農産物の購入には繋がっていないところがある。
- ・ 農家の立場からすれば農産物を買ってほしいという思いが一番強く、そのためには消費者に庭先直売所に直接足を運んでほしいという気持ちもあると思う。現状の購入者だけでなく、その幅をより広めると、経営もより安定してくるのではないだろうか。
- ・ 小平市政の世論調査において、以前は「小平農産物を購入しない理由」の1位に「販売場所が分からない」が上がっていたが、現在は「販売場所が遠い」が1位となっている。小平市への居住年数別に見ると、5年未満の人たちは「販売場所が分からない」が大半を占めていた。こういった世論調査のデータを活用し、本会議の内容に反映させる

必要があると思う。ターゲットの設定では、マンションの定住者なのか、転入者なのか、これから建設される大型マンションに在住する人なのか、こういった方をターゲットに考えて行くのも良いと思う。

- ・ 消費者が農家の苦勞を知ることで、地産地消を推進するという側面があると思う。しかし、苦勞はどの仕事でもあることなので、こういったマイナスの発想よりも、小平の農業に触れたり、見たり、感じたりすることで生活が明るくなったといったプラスのイメージでPRしていく方が発信する側も受け取る側も明るい気持ちで進められると思う。
- ・ 小平の農業を広報する上で、旬の野菜と季節の野菜は「健康」や「安全」、農のあるまちという意味では「環境」という言葉がキーワードになってくると思う。こういったプラスのイメージのキーワードから絞っていけば、広報のテーマが具体的になってくると思う。
- ・ プラスの面をPRしていった方が良いと思う。消費者の方々に農産物を食べてもらいたいというのが一番にあるので、直売所で農産物を買ってもらい、食べて美味しさを味わってもらい、また来店してもらうような流れを作れたら良いと思う。そのためには、直売所を知ってもらうことが重要になってくると思う。直売所を巡るスタンプラリーは直売所のPRには良いと思う。
- ・ 飲食店でも使っている農産物を生産している農家の顔写真やその畑の写真を掲載して、小平の農業のPRができると思う。
- ・ 市報で旬の野菜の情報を定期的に掲載するという話もあったが、これは非常に良いことだと思う。情報がないと購入しに行くきっかけもできない。是非ともたくさん情報発信して欲しい。
- ・ この会議をとおして、農家の苦勞や大変さについて知り、衝撃を受けた。ほとんどの消費者がこの事実を知らない現状があるため、第一に農家の方々の苦勞している部分を発信していく必要があると思う。
- ・ 東京都で農業を営むことは非常に大変なことだと思う。価格を変えずに安価に提供するのはではなく、価格転嫁がされて、生産者も消費者も適正な価格で、どこも無理しない安心安全な取引になってほしい。
- ・ 消費者として小平の農業を知るために「直売所がどこにあるのか」、「どんな農産物が販売され、どんな新しい野菜が生産されているのか」、「どんな調理の仕方があるのか」「農家の方々の農薬の散布状況」などを知りたい。こういった情報を市報に漫画風に掲載したりすることが良いと思う。
- ・ 市民の欲しい情報は、JAや市役所、野菜組合、果樹組合、観光まちづくり協会などの様々な組織から既に発信されているものばかりだと思う。また、様々な組織から同じ情報が発信されていると感じるが、どの情報も今ひとつ届いていない。こういった既存の情報を届けるためにはどうすべきかを考える必要があると思う。
- ・ 小平の農業の情報がまとめられたプラットフォームがあれば、混雑している情報も分かりやすくなると思う。
- ・ 居住年数が短い市民や市内の端の位置に居住する市民には、情報が特に届かない部分があるため、そういった市民に対してどのように情報を届けていくかを検討できたらと思う。
- ・ スタンプラリーのイベントがあるなら、参加したいと思うが、長い時間直売所をオープンするとなると、畑の管理ができないので難しい。ただ、市内10軒程の農家が手を挙

げ、事業をスタートさせれば、少しずつイベントが動いていくと思う。

- ・ バランス良く東にも西にも市内産農産物を購入できる場所がほしい。N T T社宅の跡地にできたマンションは1 0 0 0を超える戸数があり、小さな公園が整備されている。そういった場所で嘉悦大学の学生と連携してマルシェ等の開催ができれば、良いPRになると思う。
- ・ 本日の会議の中で農業に関する情報発信について、重複している情報があり、情報の一元化をした方が良いという部分と、農業に関する取り組みについて、多種多様な場所で情報発信していかないと伝わっていかないとあることが挙げられていた。そういった意味では、どの媒体を使って発信していかなければならないかを次回考えていかなければならないと思う。

5 次回開催（第5回）

令和7年7月7日（月）午後3時00分から